

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500349		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホーム あさぎり		
所在地	千葉県千葉市緑区大木戸町1200-69		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ACCOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和4年10月31日	書類(文書)評価	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは畑が広がる自然環境豊かな中に位置している。居室は馴染みの家具を置く事ができ、落ち着いた環境で過ごすことができる。コロナ禍でも近隣の自然に触れながら散歩することができた。法人としてグループホームの他に特養などがあり、あんしんケアセンターの委託も受けているので、入居者やご家族が相談しやすく、選択肢が広がるような資源がある。感染予防の為、ZOOMIによるオンライン面会や研修、ラインによる家族との連絡、写真送付などを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍でホームに対する家族の理解度や信頼度は毎年低下しているようである。これはホームのサービスや熱意そのものが低下したのではなく、事業継続性の見地から外出や面会を厳しく制限している結果と思われる。ラインやZOOMでの面会はサポートされているが、利用者が十分理解できていないことが家族から指摘されている。多くの場合、画面が小さくて臨場感が薄いことが原因と推察される。簡単な操作で、スマホやタブレット画面を、大きなTV画面に映す「ミラーリング」という手段があるのでぜひ利用を検討されることをお勧めしたい。ホームでは積極的な研修や毎月の行事を工夫して利用者の生活の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	1270500349 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも同じ・馴染みの環境・ゆったりと楽しく」という理念を共有しているが、実践につなげることは十分でない。	理念を継続して復唱したりすることは有意義ではあるが現実的ではないことが多いので、管理者は常に理念を念頭に置いた行動をすることで率先垂範に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が定期的に地域の体操教室に参加したり職員が地域の草刈りに参加している。傾聴ボランティア行事やイベントの開催など、地域の方、ご家族と交流を実践していたが、休止している。	コロナ禍で従来あった地域との付き合いは休止している。感染防止の観点から、安心して対応できる範囲について職員間で話し合われることを期待したい。	
3		○運営推進会議を活かした取り組み 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内での認知症の人の理解や支援の方法を会話の中でしてるが、地域の人々に向けて活かすにはなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況、イベントの取り組み、ヒヤリハットやアクシデントを報告し、対応策について意見を頂けるよう書面にて開催した。	運営推進会議は対面では実施できていないが、ホームの状況や研修内容、ヒヤリハットなどを書面でオープンに伝えており、関係者へ理解を促している。アンケート調査でも、正直にホームの現状を伝えていると評価されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業課の担当者に電話したり、直接相談に向くなどして事業所の実情や取り組みを説明し、アドバイスをいただいたりしている。	日常業務に関する事案については、市の介護保険事業課と連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為において、すべての職員が理解できるように先輩からの指導を行っている。	身体拘束適正化委員会は開催されており、職員間で知識を共有している。内部研修でも繰り返し取り上げ理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体でのチェック表や話し合い、朝礼、ミーティング、オンライン研修など学ぶ機会を持っている。身体を観察し、施設内で虐待が行われないよう、家族との交流機会などをもち、閉鎖的な雰囲気をつくらないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	居宅支援事業者や地域包括ケアセンターの職員に聞きながら、制度活用について確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読みながら説明し、改定時には更新書類を送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面や電話などで運営方針の変更などをお知らせし、要望や意見を聞いている。	面会ができないことで”生の状況”がわからないことに対して家族から意見が出されている。ホームだけでは対応が難しい課題も多いと思われるので法人を交えての検討を期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議だけでは意見や提案を聞くまでには至らないため、日々の業務の中で個々の要望や意見を聞いている。	充実した研修を実施しており、職員の意識は高まっている。これが年間事業計画などに反映していると思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の能力や実績を把握しており、評価内容により昇給を行ったり、賞与に反映させている。労働条件が厳しい中、ストレスチェックを行うなど環境整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を提供し、職員の質の向上に努めている。人事考課後のフィードバック時に各々の目標を確認して成長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や県の地域密着・小規模ケア推進協議会を通じ、情報交流を行ったり助言を受けている。勉強会や相互訪問を行い、サービスの質を向上させるように努めている。平成18年に千葉市グループホーム連絡会を設立し、研修会、行政との施設の報告性を確認し、士気高揚に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常会話の中で、気になること、心配なこと、本人が安心して過ごせるように声掛けし傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃の入居者の様子を伝えながら、どのように過ごしていきたいのかを伺い、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とよく話し、どのような支援が必要なのか考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者自身で出来ることをして頂き、残存機能を活かすことを実践している職員と、つい手を出してしまったり、お客様扱いをしてしまう職員がいるが、暮らしを共にするという視点は不十分と思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が何を考えて、何を必要としているかを伝え、共に支えていこうとするコミュニケーションをこころがけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は自宅訪問から、馴染みの人や場所について聞きだし、共有して利用者とのコミュニケーションに活かしている。	コロナ禍で面会自粛が続く、一部の家族とは、ZOOMによるオンライン面会が支援されている。アンケートでは面会や外出支援についての要望が多く出されている。コロナ禍が長引く中でコミュニケーションの方法について工夫をお願いしたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフが間に入り、バランスをとって調整したり、席替えなどを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、退所もしくは永眠となるので、改めて経過をフォローするには至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所期間が長く認知症状も進んでおり、意向の把握が難しくなっている。職員同士で話し合い、本人本位の暮らしにもっと寄り添う必要がある。	センター方式を用い、「私の姿と気持ちシート」が作成されている。行動や言動 日常の何気ない会話や表情しぐさを、個別シートに記入して本人の思いに寄りそう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録から情報を得ている。家族、本人から話をきいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の連絡・報告・相談等を共有を常に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づく評価を担当者に確認したり、チームの話し合いの機会をつくり、介護計画を作成している。	ケース記録をもとに、ユニットごと毎月、ケアカンファレンスを実施している。モニタリングは短期目標に合わせケアマネージャーを中心に実施し、本人家族の意向や要望を取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録や連絡ノートを活用し気づき、工夫など増えてきており、職員間での情報共有できる環境ができてきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスのアイデア・思考がスタッフ間に広がらず、既存のサービスにとらわれてしまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体機能を低下させないように(公民館)自治会館で行う体操教室に参加していたが、お休みしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医・訪問看護師などが毎週訪問して頂くので、その都度指示を仰ぎ、適切な医療が受けられるようにしている。	月2回の主治医の検診と、訪問看護師の衛生管理、24時間オンコールの体制があり、その都度指示を受け、適切な医療が受けられる。職員研修の折には、看護ステーションから「認知症のケア」に関する副読本の提供があり、社内研修を行っている。専門医「精神科・眼科・皮膚科」受診は、職員が同行して受診し、家族へも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護に来ていただいております。訪問看護ステーションとは常時電話相談できる環境がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカー(MSW)と入院中も状況を確認したり、通院時も家族を通じて連絡を受け連携シートやサマリーを利用して、情報交換を行ったケースがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者について、医療機関と連携をとり、家族に連絡を取りながら看取りの対応を図っていた。事業者で出来ることを伝え、他部署などとも連携を図っている。	重度化と終末期に対する指針が作成されており、入居時説明し同意を得ている。リビングウィルの提出で、要望を共有している。主治医、訪問看護師と連携をとり、利用者・家族にとって最善の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医・訪問看護師などと報告、相談、連絡を円滑に行っている。救命救急講習を受け、職員間でも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風被害などの経を生かし、早めに電灯などの設備を整えるなど工夫している。避難方法については訓練など行う予定。発電機も備えている。	台風被害の経験を活かし、早めに電気関係の設備の点検、見直しを図っている。避難方法については、消防署訓練を行う予定。発電機も新たに備えられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには気を付けて、注意を払うようにしている。	一人ひとりの人格を尊重した丁寧な言葉掛けを心掛けている。利用者の尊厳の保持を介護の基本とし、本人の意思を大事に、本人に寄り添った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に沿って、何を求め、何をしたいのかが見取れるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今年度のあさぎりの目標であったが、興味関心シートを一部の方のききとりのみで、実行するにいたらなかった。介護量が増えて、個々の過ごし方が十分でなくなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでもらったり、清潔な靴や靴下を購入したり安全も含めながら、身だしなみの支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆配り・お箸配り状況によっては下膳・食器洗いなどを行っている。	食事は、厨房棟で作られ、管理栄養士により、一人ひとりに適した栄養バランス、形態を考慮して提供されている。食事委員会は、楽しい食事を考え、餅つき大会や行事食作りを計画している。利用者は自分のことで、職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量は記録し確認している。栄養バランス、食事形態なども個々の状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の口腔内の状況を確認しながら、歯磨き・ブクブクうがい・口腔ケア用のティッシュ・職員による義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握につとめ、失禁しないように声掛け誘導している。	個々の介護記録表から時間を見計らいトイレ誘導している。プライバシーが守られ、自尊心に配慮した支援に努めている。散歩や体操で、下肢筋力低下を抑え、トイレでの自立が継続できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行い、苦手な方にはゼリーなどを提供している。運動の働きかけをもっと増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調を考慮し臨機応変に対応している。最低でも週二回は入浴できるよう確保している。	週2回の入浴を、本人の希望やタイミングに合わせ、対応している。入浴時の会話を楽しみ、入浴剤などで、ゆったりした気分で入浴できている。バイタルチェックと、皮膚状態の確認をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず、ここにあった時間で休息し、プライベート時間を大切にしている。就寝時間でも居室で落ち着かない状況ならば、レストランで過ごしていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に担当者が把握しているが、職員全員がわかるように医療情報ファイルを作成し、処方の内容の把握につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニットごとに外出や食事などの企画を立て、実践している。一人ひとりにあわせた役割、楽しみを考えているが十分とは言えない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、体操教室、地域のイベントなどに参加していたが、コロナ禍の影響で近隣の散策にとどまっている。利用者の介護度も上がり(高くなり)、利用者及びご家族自身の平均年齢も高くなってきており、個々の外出はできていない。	周辺の環境が良く、散歩は日常的にできている。園芸活動では、花を植えたり、季節の花を飾ったりしている。外出困難な方は、外気浴を定期的に行って健康を維持している。コロナ終息後は法人の保育園の子ども達との交流を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については家族、事務所で一括管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたがる利用者には、職員が一度かけてから利用者本人へ変わるようにしている。自立した方は携帯電話を持たせている。ズームを利用したオンライン面会を実施している。希望者は手紙をだせるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のカーテンは天気の良い日には換気のために明けたり、最高がまぶしい方には閉めたりしている。室内温度は定期的にチェックし、壁に季節の掲示物や机に花を飾ったりしている。	廊下・食堂、共有の空間は、毎朝の清掃、手すりの消毒で清潔に保たれている。室内は機器による温度管理と空気清浄で安全な環境になっている。入居者同士の関係性に配慮した座席を工夫するなど、居心地の良い空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えや机の様式替えなど、会話ができる利用者同士を隣にしたり、窓際の椅子に座れるように空いたり、居心地の良い空間と雰囲気の提供に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が布団や衣類など使い慣れたものを持ち込まれている。本人の意向に沿って居室内のレイアウト、動線が良いように配置されている。	自宅で使用していた、馴染みのものを本人と家族で相談して、居室で使用している。生活したい自分の家として、同じような環境を作り、安心して居心地よく過ごせるようにしている。できる人は職員と一緒に清掃、消毒を行い、清潔に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には案内版を掲げ、利用者の方にもわかるように工夫している。室内は物品整理して安全面に配慮している。新型コロナウイルス感染防止の為にドアの取っ手などをアルコール消毒している。		